

発行所  
長野県保険医協会  
〒380-0928長野市若里1丁目-5-26  
電話 026(226)0086  
FAX 026(226)8698  
E-mail nagano-hok@doc-net.or.jp  
年間購読料 3,600円(会員の購読料は会費に含まれています)



2016年(平成28年)10月25日  
No.428(毎月1回25日発行)  
(1990年6月22日第三種郵便物認可)  
**主な記事**  
歯の供養祭/後半期の歯科研修会等..2面、  
T P P臨時国会前に批准させない運動呼びかけ/若手懇話会報告..3面、保険かわら版/理事会便り..4面、協同組合ニュース..5~6面、

## ストップ患者負担増の請願署名提出 全国18万(長野分1603)筆積み上げ集会も

保団連の9月29日中央要請行動で請願署名提出集会、各県選出国議員への陳要請懇談が行われ、長野協会からは鈴木会長、河原田、林各



常任理事、宮沢事務長ほかが参加。要請書は議員秘書らを通じて提出した。窓口負担増計画の中止や薬価制度改善等の保団連要請項目とともに長野は「今臨時国会でT P P承認を強行しないこと」を求めて要請した。



請願署名を積み上げての「ストップ!患者負担増署名提出集会」の会場(上)と同会場に駆けつけた国会議員に保団連住江会長と共に長野・鈴木会長が署名を託す場面。

今年3月より呼びかけられてきた「ストップ!患者負担増」署名は、長野県では1,603筆もの署名が集まり、この日の持参分762筆は参議院杉尾秀哉議員に託された(10/6受理、厚生労働委員会付託済)。ご協力いただいた会員ならびに患者の皆様深く御礼申し上げます。

た署名約18万筆が積み上げられた。署名の協力医療機関数は6,500医療機関になり、前回集約時より1,300の増加である。全国から患者、医師、歯科医師を含め約200名が参加。呼びかけに応じた16名の衆参国議員が駆け付け挨拶に立った議員らは「改悪は絶対にさせない」「社会保障削減路線撤回を政権に

## 「在宅医療の手引」説明会を開催

長野県保険医協会では保団連発行の「在宅医療点数の手引」を使用して表の日程で説明会を行う。4月の診療報酬改定で変更があった在医総管、点滴

薬剤の算定方法などを中心に解説を行う。  
【参加資格】保



険医協会会員医療機関の医師・事務担当者  
【参加費】無料  
【テキスト】「在宅医療点数の手引」2016年改定版 医科開業医会

会場	日時	場所
上田会場	11月15日(火)	上田市勤労者福祉センター(2F) 上田市中央4-9-1 TEL:0268-24-7363
長野会場	11月16日(水)	長野市生涯学習センター(トイゴ3F) 長野市大字鶴賀問御所町1271-3 TEL:026-233-8080
松本会場	11月17日(木)	キッセイ文化ホール(3F会議室) 松本市水汲69-2 TEL:0263-34-7100
飯田会場	11月24日(木)	飯田文化会館(1F展示室) 飯田市高羽町5-5-1 TEL:0265-23-3552

時間は各会場共通の9:00~21:00

なしてである。(OH生)

最近、参加した学会や研究会で話題になったのは、大雑把な表現を許して頂くなら、今後の日本の医療の在り方であった。少子高齢社会が進行する中で団塊の世代が75歳以上になる二〇二五年以降、高齢者に対する医療と介護が質・量も爆発的に増加する、当然医療費もうなぎ昇りである。これまで医療の多くは治療を目指すものであったが、誤解を恐れずに言えば、今後は看取りを含め必ずしも治療を目指す医療ではないだろう。また、これまでの臓器別医療から高齢者総合医療の比重が大きくなるだろう。一方高齢期の疾病予防には小児期から壮年期にかけて、保健予防対策をしっかりと行なっていく必要がある。財源問題に関しては企業の保険料の増加や所得税の累進化の強化などが考えられるが、高騰する終末期医療費を含め無駄な医療費を抑制する必要もあると考える。国ではこうした問題に対し様々な施策を打ち出してきている。保険医としてこれらの施策について熟知しなければならぬ。この保険医新聞でも情報提供していくつもりである。これらの施策の一つとして各市町村で計画を立てている地域包括ケアシステムがある。われわれは保険医として市町村担当部署にヒアリングを行い、それぞれの地域包括ケアシステムに反対するのではなく、より良い方向に向かうようにしていかなければならないと考える。二〇二五年問題はすぐやって来る、待たなしてである。(OH生)

患者負担計画に関心をと  
リーフとクイズチラシで運動

長野県保険医協会では、現在進められようとしている患者負担増計画を広く患者さんに知らせ、医療問題について関心を高めてもらうと10月よりリーフレットの配布とクイズチラシ運動に取り組んでいる。

リーフレットでは表や漫画も入れ、70歳以上の高額療養費制度の負担上限引き上げ、受診時の定額負担制度の導入、市販類似薬の保険はらずし、入院時の居住費負担増など、社会保障抑制を目的にあらゆる世代に負担増となる計画があることをわかりやすく伝えている。

また今回は医療に少しでも関心を持ってもらおうとの趣旨で待合室に気軽に診察までの待ち時間に簡単なクイズにチャレンジできる景品付き

クイズチラシも準備した。

リーフ、クイズチラシ(ポケットティッシュ版もあり)を医療機関の待合室に置くなど積極のご活用をお願いしたい。

実施期間は、10月~12月。クイズチラシ(ポケットティッシュ版も同様)の応募はがきの回収は、患者さんが直接保団連に郵送、医療機関に回収箱を設置して一定数が集まったら協会に郵送いただくの2通りで、後者では応募はがきの「取扱い医療機関名」欄に押印がある場合は抽選となるが協力医療機関への景品も用意されている。



クイズチラシ2点とリーフ(右)

迫る論戦をしていく」と決意を語った。また全国がん患者団体連合会理事長の天野慎介氏は患者の立場から「人によっては治療のために家賃ほどの額を毎月支払っており、中には借金を重ねながら治療を続ける患者もいる。これ以上負担が増えると必要な治療が受けられなくなる虞れがある」と患者負担の現状と負担増計画への不安を訴えた。

患者負担増が格差を広げ、初診時重症化で医療費増大も、昼前に行われた厚労省への要請行動では、さらなる患者負担増計画を取りやめるとともに負担を軽減する施策を行っていくよう求めた。

フロアからの発言では、患者負担増員の希望者に1冊無料配布。追加等は会員価格2,800円(定価4,000円) 事前注文の上、当日持参してください。

【注文・申込先】長野県保険医協会(電話)026-226-0286(締切11月11日)

によって起こりうる受診抑制が初診時の重症化をまねき、結果として医療費の増加につながる事が指摘された。保団連の受診実態調査では、回答した会員のうち7割以上が「患者負担増によって受診抑制が起こる」と考えていることが明らかになっており、医療現場でも患者負担増は深刻に捉えられている。フロア発言にて鈴木会長は子どもの窓口負担に触れ、「現在子ども医療費が窓口無料になっていないのは長野県を含め7県だけ。窓口無料化によるペナルティー(一部負担金を減額した場合の療養給付費負担金を減らす政策)を廃止し、早期の窓口無料化にむけた取り組みを行うべき。医療費を抑制するためには、『いつでも受診できる』という安心感が必要だ」とのべた。同日に厚労省は社会保障審議会医療保険部会を開き、70歳以上の高額療養費制度の月額上限の引き上げなどに関して論議を進めている。

## 鶏声

最近、参加した学会や研究会で話題になったのは、大雑把な表現を許して頂くなら、今後の日本の医療の在り方であった。少子高齢社会が進行する中で団塊の世代が75歳以上になる二〇二五年以降、高齢者に対する医療と介護が質・量も爆発的に増加する、当然医療費もうなぎ昇りである。これまで医療の多くは治療を目指すものであったが、誤解を恐れずに言えば、今後は看取りを含め必ずしも治療を目指す医療ではないだろう。また、これまでの臓器別医療から高齢者総合医療の比重が大きくなるだろう。一方高齢期の疾病予防には小児期から壮年期にかけて、保健予防対策をしっかりと行なっていく必要がある。財源問題に関しては企業の保険料の増加や所得税の累進化の強化などが考えられるが、高騰する終末期医療費を含め無駄な医療費を抑制する必要もあると考える。国ではこうした問題に対し様々な施策を打ち出してきている。保険医としてこれらの施策について熟知しなければならぬ。この保険医新聞でも情報提供していくつもりである。これらの施策の一つとして各市町村で計画を立てている地域包括ケアシステムがある。われわれは保険医として市町村担当部署にヒアリングを行い、それぞれの地域包括ケアシステムに反対するのではなく、より良い方向に向かうようにしていかなければならないと考える。二〇二五年問題はすぐやって来る、待たなしてである。(OH生)